

次期学習指導要領 1枚まとめ｜中学校

総合的な学習の時間 中学校

小中も「総合的な探究の時間」へ。一人一人の探究を深める方向

10秒でいうと　名称が「総合的な探究の時間」に。修学旅行・職場体験は探究として成り立つ部分だけ代替可

中学校の「総合的な学習の時間」も、「総合的な探究の時間」という名前に変える方向です。学校行事を総合の時間で代わりに行えるかのルールを、より分かりやすくする案です。修学旅行や職場体験は、探究として成り立つ部分について代替できるとされています。探究の形として「研究系」「行動系」「創作系」を示す方向です。AIを使うときの注意点も示されています。

1 学校行事の代替ルールをはっきりさせる

総合で学校行事を代わりに行えるかは、総合と特別活動の両方の目標に照らして判断します。儀式的行事や、「文化的行事」「健康安全・体育的行事」の準備（学習発表会を除く）は、総合で代替しないことが原則です。修学旅行や職場体験などは、探究として成り立つ部分を代替できる方向です。P336

授業では たとえば修学旅行で、事前に自分で問いを立て、現地で調べ、帰ってから発表するまでを探究として組み立てることが考えられます。

2 「研究系」「行動系」「創作系」の探究

探究の課題に注目すると、「研究系」「行動系」「創作系」という形があると示す方向です。形によって探究の進め方は違います。決まった手順を順番に回すこと自体が目的にならないよう注意します。創作系は、アイデアを作品として形にする探究です。P324

授業では たとえば、地域の魅力を伝える動画やアプリを作るなど、創作系の探究を選べる形にしておくことが考えられます。

3 名前も「総合的な探究の時間」に

中学校でも、教育課程の基準上の名前を「総合的な探究の時間」に変える方向です。小中高で名前をそろえることで、総合の中心が「探究」だとはっきりさせるねらいがあります。目標も小中高を通じて一貫した形で整理されています。P343

授業では たとえば、今の総合の時間の使い方を見直し、探究とは言えない活動に時間を使っていないかを学年で確かめることが考えられます。

4 情報技術は積極的に。AIは「偽の熟達」に注意

総合では、体験を土台にしつつ、情報技術をとくに積極的に使うことを明確にする方向です。一方でAIを使うと、高度に見えても力が付いていない「偽の熟達」が起きるおそれが指摘されています。学習の過程を省くことによる学習効果の低下も心配されています。P328 P330

授業では たとえば生成AIで情報を集めたあと、実際に人に話を聞いたり現地で確かめたりする時間を必ず入れることが考えられます。生徒が使うときは、学校が認めたサービスを、年齢制限や保護者の同意を確かめたうえで先生の指導の下で使い、名前や写真などの個人情報は入力させません（文部科学省の生成AIガイドラインP19）。

ほかにも変わること（中学校）

- 学校行事を総合で代わりに行えるかのルールを明確にする方向 P336
- クラス共通の「テーマ探究」と一人一人の「マイ探究」を組み合わせる P322 P323
- 成果を「外化」する機会と、「節目としての探究」 P323 P325
- 全体計画・評価をシンプルにし、目標は学校の「基本的な方針」とも結ぶ P333 P334 P335
- 探究のとらえ方を整理し、「研究系・行動系・創作系」を示す方向 P321 P324 P325
- 情報技術を積極的に使い、AIは「偽の熟達」に注意 P328 P330
- 各教科・道徳・特別活動との役割分担を整理する P320 P325 P326 P327 P337
- 「社会との連携」を進める（総合は教育課程の「出島」） P335 P338 P339 P340 P342

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜
https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜
2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。